

今後の「大溝陣屋 総門」の活用方法について検討しています

総門は大溝陣屋の正門で、宝暦五年（1755）に大修理し、現在に至っています。棟瓦には分部氏の定紋である「丸ノ内ニに三引」が残り、大溝陣屋に係する建造物で唯一現存する貴重な文化財です。

現在は高島市指定文化財となっており、「大溝の水辺景観まちづくり協議会」が案内窓口兼事務所を設置しています。また、地域でまちづくり活動を行う様々な団体の活動拠点としても活用されており、平成 30 年度には延べ 2,000 人程度の利用がありました。

しかし以前より老朽化が進んでおり、高島市が平成 29 年度に建物調査をおこなったところ、修理が必要な部分が明らかになりました。「大溝の水辺景観まちづくり協議会」では、今後総門がどのような施設であれば、地域にとって、また他所から来てくださる方々にとって良いのかを検討しています。皆様からもぜひご意見をいただきたいと思います。



大溝陣屋 総門 全景

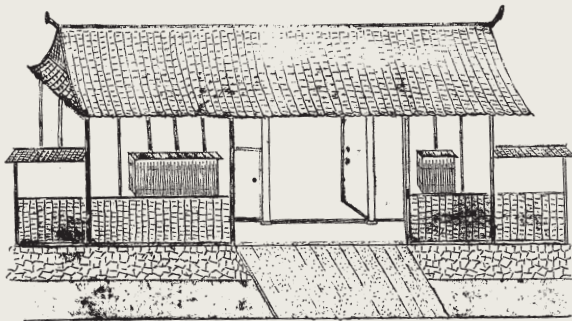


分部家の家紋が残る棟瓦



利用の様子

江戸時代の総門はどんな様子だったの？



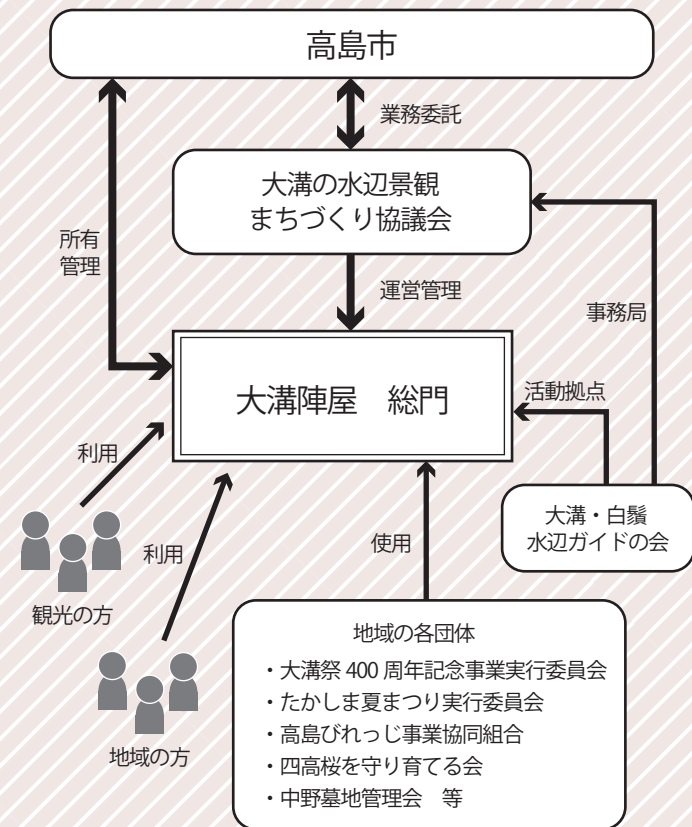
▲江戸時代の総門（「大溝藩郭内の昔話」掲載）

～以下は「大溝藩郭内の昔話（中村貢編）」より抜粋した文章です～

「総門は以前には大門の西側に耳門がついていた。門の西の部分には敷台があって、低い衝立が置かれてあり、突棒や刺股が立ててあって、門番が警護していた。

総門の東側の方の部屋はいつも閉められてあったが、日吉神社の祭礼の時には町奉行など士分の者がここに坐ることになっていた。八時頃、まだ曳山が通る前、町の主だった人達が袴を身につけて総門の前にずらりと並んだ。そうすると町奉行が部屋の出格子から「天気もようて一段のこと」とあいさつをするようになっていた。」

大溝の水辺景観まちづくり協議会・大溝陣屋 総門 関係図



大溝の水辺景観まちづくり協議会スタッフ紹介

うへだ みき
上田 未来

協議会設立時から事務局スタッフとして働かせていただき、もうすぐ丸5年になります。出身地は天津市で、高島市民となつてからは丸6年。地縁や血縁のない高島ですが、人のつながりに助けられながら暮らしています。今年の6月からは個人事業として、勝野で空き家を借り改修をして、シェアキッチン「白湖（はこ）」をオープンさせました。これからも人のつながりを大切にしながら、「高島が将来も住み良いところであつてほしい」という思いを一つ一つ形にしていきたいと思っています。

しみず ともし
清水 知希

今年の4月から大溝の水辺景観まちづくり協議会で働いている清水知希です。前職IT関連企業、今津図書館を経て、高島学園の前でパソコン教室を営んでいます。現在大溝の歴史や観光について学びながら、まちづくり協議会のホームページの更新やフェイスブックの記事作成など行つております。学生時代はデータベースを専攻しておりましたので、まちづくり協議会のデータ管理や分析などを行い、効果的な地域活性に活かしていきたいと思っています。

発行：大溝の水辺景観まちづくり協議会

設立：平成 27 年 4 月 住所：高島市勝野 1 6 8 8
会長：澤村 茂美 TEL：0740-36-2011 FAX：0740-36-2012
副会長：仁賀 定夫、福井 順一 MAIL：oomizo.mizube@gmail.com
会員：17 名（令和元年 11 月末現在） 営業時間：10 時～17 時（水木定休）

10
2019.12

重要文化的景観「大溝の水辺景観」から発信する活動広報紙

おおみぞこみぞつりん



「令和元年度 大溝の水辺景観まちづくり協議会 活動報告」号



光秀の足あと その 1 田中城跡・・・光秀が文献に初登場した場所



場所：高島市安曇川町田中

元亀元年（1570 年）4 月、織田信長は越前の朝倉義景を討つため「田中の城」に逗留したと「信長公記」に記されています。田中城は元亀 4 年（1573 年）に信長の手によって攻略され、終焉を迎えますが、最近見つかった史料に、光秀が若い時、田中城にいたのではないと思われる記録があります。前半生については史料がほとんど残っていない光秀が史料に初登場したのは、実はこの田中城なのです。

光秀の足あと その 2 大溝城跡・・・光秀が設計した近代城郭



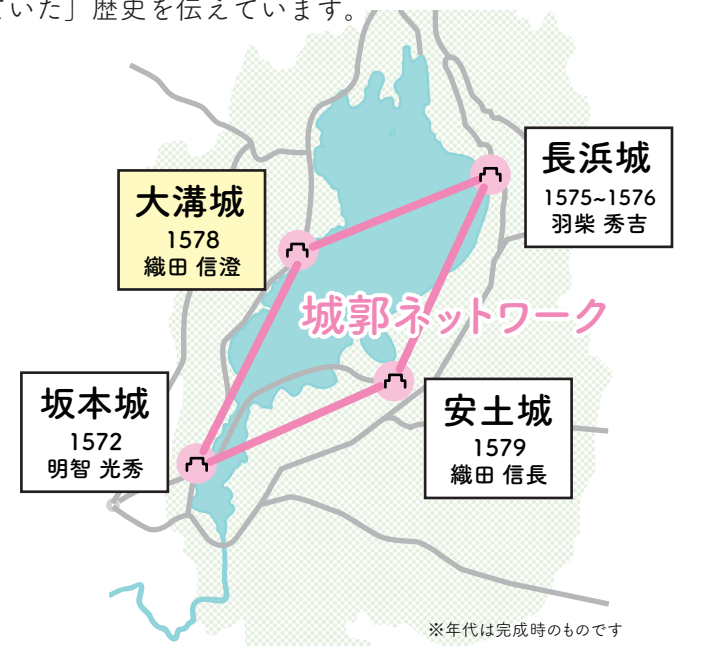
場所：高島市勝野

大溝城は、織田信長の甥である織田信澄が築城した城ですが、縄張り（設計）は明智光秀が行っています。光秀自身が築いた坂本城について、宣教師のルイス・フロイスがその著書『日本史』のなかで「かの大湖のほとりにある坂本と呼ばれる地に邸宅と城砦を築いたが、それは日本人にとって豪壮華麗なもので、信長が安土山に建てたものに次ぎ、この明智の城ほど有名なものは天下にないいほどであった」と述べ、光秀を「築城のことに造詣が深く、優れた建築手腕の持ち主」とであると評しています。大溝城についても、坂本城と同様に琵琶湖から乗り入れが出来、天守と石垣が築かれた近代城郭でした。

信澄は信長の命により、明智光秀の娘を妻に迎えており、このことで、光秀の起こした本能寺の変のあと共謀を疑われ、討たれてしまいます。今も残る大溝城天守台の石垣が「光秀が確かに高島の地で活躍していた」歴史を伝えています。

信長が夢見た天下統一と湖上の「城郭ネットワーク」

近江国は、古代より人や物が行き交う非常に重要な交通の要衝であり、特に戦国時代には軍事的防衛施設としての城がたくさん築かれました。そして戦国末期には織田信長により、城は軍事的側面以上に経済的・政治的効果を果たす拠点となっていきます。信長は自身の安土城築城に先駆けて、明智光秀の坂本城、羽柴秀吉の長浜城、甥・信澄（のぶずみ）の大溝城を築かせ、これら四つの水城により安土を中心とする湖上の交通・軍事掌握のネットワークを完成させました。諸城の配置は、陸路の押さえとなるとともに、船運による大量の物資・兵力を迅速に輸送するシステムを構築する基盤ともなりました。これにより、信長の天下統一の夢の実現は目前にまで迫っていました。



※年代は完成時のものです

大溝の水辺景観まちづくり協議会 活動紹介

観光客受け入れの基盤をつくる活動

1. 地域の案内窓口

重要文化的景観「大溝の水辺景観」の案内や問合せ窓口として、大溝陣屋総門内に開設しています。

「大溝まち並み案内処 総門」という名称で、水・木曜日を除く週5日、窓口開設しています。平成30年度来館（利用）者数は約2000人、内訳は市内からと市外からがおおよそ半々でした。来館（利用）目的は、観光情報収集、空家探し・移住相談、観光ガイドの活動拠点、地域の各団体の活動拠点などが主なものです。大溝祭でも曳き手募集や観光問い合わせの窓口となっています。



2. 観光案内ツール整備

「大溝の水辺景観」の認知度を上げたり、観光の方を誘導するための看板やマップをつくっています。

協議会が立ち上がった平成27年度から、6件の看板新設・修理、2件のマップ作成に携わっています。JR近江高島駅周辺に重要文化的景観「大溝の水辺景観」の案内看板を新しく設置したり、地域での既存看板の修理にご協力したりなどしています。また、マップは観光の方にまちを楽しみながら歩いていただくことを目的として工夫をしながら作成しています。



3. 観光ツアーづくり

大溝の城下町や白鬚神社などを案内する「水辺ガイド」の運営や、ツアーの企画・運営などを行っています。

平成28年度にガイド養成講座を実施、その受講生の皆さんからなる「大溝・白鬚水辺ガイドの会」（現在9名登録）の事務局として、まちあるきツアーの企画・運営をおこなっています。定例ミーティングでは、観光にとって必要な対策などについても話し合っています。少人数の団体様を主なターゲットとして、丁寧な説明と地域の皆さんとの連携を意識して活動しています。



平成27年1月、旧大溝地域が国の重要文化的景観「大溝の水辺景観」として選定されたことをきっかけに、「大溝の水辺景観まちづくり協議会」が設立されました。現在、高島市から委託事業を受け、勝野・打下地域の活性化を目的に活動しています。その活動内容を紹介します。

4. 空き家活用、移住促進

地域にある空き家を活かし、移住や開業を促すために調査や見学会、イベント等を実施しています。

平成27年度、大溝・打下地域の空き家軒数調査を行いました。そのうち、「活用したい(してほしい)」という所有者さんのご意向が確認できた3軒の空き家について、平成28年度に見学会を実施しました。その後3軒全ての空き家が店舗や事務所として活用されています。また平成30年度、市外在住者を対象として、高島の暮らしや人を紹介するイベントを実施しました。参加者の中には、その後実際に高島市に移住された方もおられます。



5. 史跡の維持活用、文化継承

大溝城跡一帯の草刈り整備をしたり、大溝祭の観光問合せ対応などをおこなっています。

平成31年度の夏と秋に一回ずつ、大溝城跡一帯の草刈りを協議会員や水辺ガイド、その他有志の方々で行いました。また、高島市指定文化財である「大溝陣屋 総門」の活用方法についての意見交換会なども実施しています。大溝祭400周年祭では、大溝祭400周年記念事業実行委員会で企画された事業の実施サポートや観光問い合わせ対応などをさせていただきました。



6. 情報発信

地域の方に向けた勉強会の実施や、インターネットやメディアでの外への高島の魅力発信などに努めています。

重要文化的景観「大溝の水辺景観」を学ぶ連続講座「大溝ぶらり学」や、日本遺産をテーマにした講演会、「地域と発酵食」をテーマにしたトークディスカッションなどを企画・実施し、市内の方に向けた情報発信を行うとともに、ホームページやSNSを活用した発信や、テレビ番組・新聞雑誌取材への協力なども積極的に行い、市外に向けて高島の魅力を伝えることも大切にしています。



古き良きものを次世代につなぐ活動

地域の魅力を発信する活動